

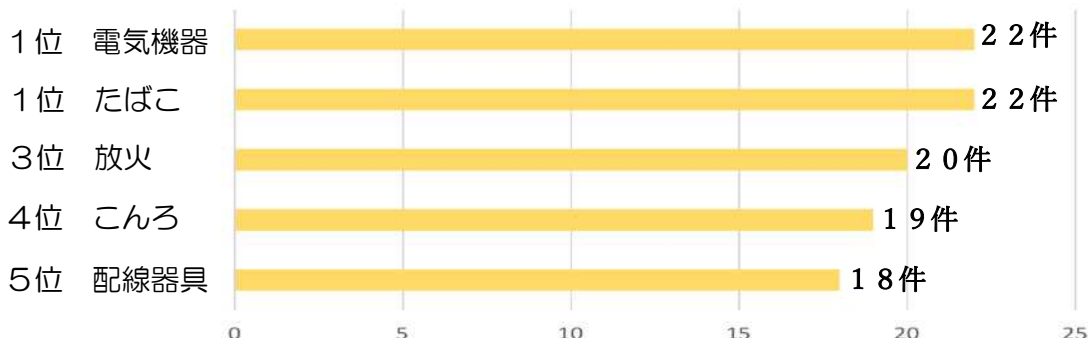
電気火災が増加傾向です ～令和6年上半期（1月～6月）の火災概要をまとめました～

川崎市消防局では、令和6年上半期における川崎市内の火災件数等を取りまとめましたのでお知らせします（本概要は速報であり、数値を訂正する場合があります。）。

火災件数は181件で、前年同時期と比較すると23件（11.3%）減少していますが、過去10年間（平成27年～令和6年）の平均件数（179件）よりは上回っており、特に電気火災※が目立ちます。消防局としましては、市民の皆様に対し身の回りの電気機器等の取扱いについて今一度御確認いただくようお願いいたします。

※電気火災・・・電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、電気装置に起因する火災
（発火源の例）リチウムイオン電池、電気コード、プラグ、テーブルタップ

1 火災原因別件数（1～5位）



2 死者・負傷者発生状況

死者は6名（昨年比+3名）、負傷者は37名（昨年比+8名）となっています。

3 火災の傾向（電気火災が多発）

電気火災が上半期で61件（火災件数に占める割合は約33.7%）と、多発しています。

（参考：前年同時期は67件。過去10年間平均39.2件）

電気火災で最も多い件数となっているのが電気機器の火災です。特にリチウムイオン電池に起因するものが17件（前年同時期9件）発生しており、近年増加傾向にあります。背景としては、リチウムイオン電池が様々な機器に搭載され、急速に普及していることが可能性として考えられます。

4 火災事例と対策

～こんな電気火災が発生しています。～

事例①リチウムイオン電池の火災	
火災事例	対策
落として衝撃を受けたモバイルバッテリーをそのまま使用し、充電中に出火！	衝撃を受け、変形や破損したリチウムイオン電池は使用を中止し、販売店やメーカーに相談しましょう。



事例②高温環境下での火災	
火災事例	対策
車内に置いていたモバイルバッテリーから出火！	高温の環境下では電池内部の構造材が劣化することで短絡することがあります。高温となる車内等には放置しないようにしましょう。



事例③コンセントプラグの火災	
火災事例	対策
電源プラグがコンセントにしっかり差さっていなかったため電源プラグとコンセントの間で発熱し出火！	・電源プラグはしっかりコンセントに差しましょう。 ・曲がった電源プラグは火災になる危険があります。使わないようにしましょう。



5 消防局からのお願い

電気火災について

- ・充電器やバッテリーは製造メーカーが指定しているものを使用してください。
- ・モバイルバッテリーや充電式の掃除機などを一般ごみとして捨てないでください。
- ・膨らんだバッテリーは使用を中止し、メーカーや販売店に相談してください。
⇒過充電等を繰り返すことで内部にガスがたまり、火災に発展する可能性があります。
- ・タコ足配線をしないでください。
⇒電源タップの許容電流を超えて火災となる場合があります。

放火対策について

- ・放火は、毎年、火災原因の上位となっています。敷地内、建物外周部、ごみ集積場等の生活に身近な場所も放火犯に狙われますので、家の周りに燃えやすいものを置かない、ごみは決められた日の朝に出すなど、「放火されない環境づくり」をお願いします。

住宅用火災警報器について

- ・万一火災となった場合でも、早期発見するために住宅用火災警報器の設置をお願いします。設置場所は寝室、台所、階段の上部（上階に寝室がある場合）となっています。また、定期的な作動点検と10年を目安として本体の交換を検討するようにお願いします。

問合せ先
川崎市消防局予防部予防課 渡邊
電話：044-223-2701